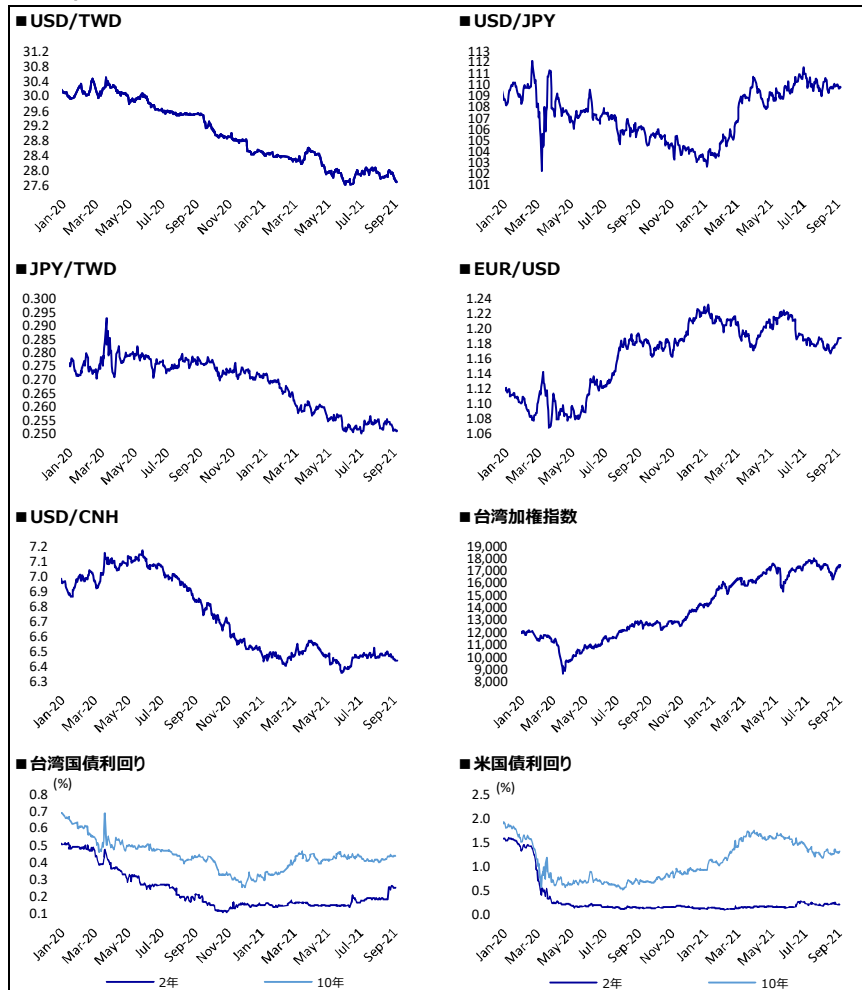


市場動向



先週の市場動向

■ USD/TWD
先週のドル/台湾ドルは2か月半ぶりの台湾ドル高水準に。週初8/30は27.920でオープン後、前週末のジャクソンホール会議でのパウエルFRB議長のハト派な講演を受けて、アジア通貨が全面高となる中、外国人投資家の資金流入もあり、じりじりと下落し、一時27.77付近まで下落。8/31は、月末ながら輸入企業のドル買いも入り27.76付近のレンジで推移していたが、台湾株が上昇に転じ、外資が流入すると一時27.71付近まで下落。月が替わり、9/1も台湾ドル高の流れは変わらず、27.70を割り込んで推移。9/2には27.68台、9/3には27.650まで下落したが、最終的には先週比0.8%ドル安台湾ドル高の27.703で先週の取引を終了。週間の外国人投資家の株式買い越し額は905.5億台湾ドル。

■ USD/JPY
先週のドル/円は下落。週初8/30は109.85でオープン後、前週末のジャクソンホール会議でのパウエルFRB議長のハト派な講演を受けてドルの上値は重く、109円台後半で推移。8/31も109円台後半で推移していたが、米8月シカゴPMIや米8月消費者信頼感指数が予想以上に悪化したこと等を受け、リスクオフの円買いが強まり、一時109.59まで下落。しかし米金利が上昇するとつられて110円台に戻した。9/1も引き続き米金利の上昇し、月初の実需の買いもあり、110.42まで上昇。しかし、米8月ADP雇用統計が予想を大きく下回ると米金利の低下につられ、109円台後半まで下落。その後の米8月ISM製造業景気指数が予想を上回ると110円台に戻した。9/2は翌日に米雇用統計を控え110円付近の狭いレンジで推移。9/3は菅首相が続投しないとの報道を受け、小幅に動いたものの、米雇用統計の発表を控えレンジで推移。米雇用統計が発表されると、非農業部門雇用者数変化が予想を大きく下回り、米金利が低下する展開に109円台半ばまで急落。しかし、米金利がすぐに上昇に反転すると、円が買い戻されたが、その後の米8月ISM非製造業景況指数が予想を上回った一方、前回から低下していることから再び下落し、一時109.59に。その後は週末を控え狭いレンジでの推移が続き、最終的に先週比0.1%ドル安円高の109.69で先週の取引を終了。

今週の見通し

■ USD/TWD 予想レンジ：27.500-27.750
先週の冴えない米雇用統計もあり、台湾ドル高の流れは継続すると見込む。ただし、節目の27.500付近では買い戻される展開も想定されるため、底値は堅いだろう。

■ USD/JPY 予想レンジ：109.00-111.30
ジャクソンホールではパウエル議長の慎重な姿勢や、先週の米雇用統計を受け、上値は重い展開が続くと見込む。今後は9月のFOMCが目玉となるが、テーパリング決定が11月にずれ込むとの見方が強まっており、ドルが買われやすい状況は見込みにくいだろう。

今週の予定

9/6 (MON)	
9/7 (TUE)	台湾8月CPI、台湾8月貿易収支
9/8 (WED)	
9/9 (THU)	米新規失業保険申請件数、ECB政策理事会
9/10 (FRI)	米8月PPI

(Source) Thomson Reuters, Mizuho Bank

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。当資料に記載された内容は、事前連絡なしに変更されることがあります。投資に関する最終決定は、お客さまご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず、無断で引用、複製することを禁じます。